

映像で知る台湾

民族誌映画「虹の物語」上映と比令亞布（ピリン・ヤプ）監督との対話

上映作品 虹の物語 (彩虹的故事)



台湾原住民族タイヤルは、かつて大人になるために、男女とも顔にイレズミを施した。言い伝えでは、人は死後、祖霊のもとへ赴くために虹の橋を渡る。そのとき、イレズミの有るものだけがこの橋を渡ることができるのだという。このイレズミの慣行は、日本の植民地統治下で禁止され、やがて消滅した。

「虹の物語」のなかで、監督はイレズミを顔に刻んだ最後の世代の老人たちを訪ね、タイヤル語で話しかけ、歌いかける。老人たちは穏やかな笑顔で、イレズミをめぐる記憶や経験を語って聞かせた。古くから伝えられてきたタイヤルの文化が失われていくさまと、それを悲しむ老人たちが映し出される。

上映時間：58分、製作：1998年、台湾、使用言語：タイヤル語、中国語（日本語字幕）



比令亞布 監督 (ピリン・ヤプ) との対話



司 会：野林厚志（国立民族学博物館）
趣旨説明：宮岡真央子（福岡大学）

プロフィール

1966年生。台湾苗栗県泰安郷のタイヤル(泰雅族、Atayal)の村マピハウ(麻比浩、Mapihaw)で祖父からタイヤルの決まりや文化を学んで育ち、師範学校卒業後に小学校教員となる。教職のかたわら1990年から村での文化復興と映像の記録・制作に従事。現在、台中市博屋瑪国民小学校校長。

他の作品に「霧社・川中島(霧社・川中島)」(2013年)、「祖先の足跡(祖先之脚印)」(2009年)など多数。

2019年 **6月7日** (金)

17:00~19:00 (16:30 開場)

福岡大学 (福岡市城南区七隈 8-19-1)

「福岡市営地下鉄七隈線「福大前」(N06) 駅下車徒歩7分」

中央図書館 1階多目的ホール【収容 182人】

参加費無料・事前申込不要

会員外の方も参加できます

主催：日本台湾学会

福岡大学福岡・東アジア・地域共生研究所

助成：公益財団法人日本台湾交流協会

協力：国立民族学博物館

